

水の確保！製水装置の導入は？

東秩父村簡易水道事業について
非常事態における飲料水の確保について

村長

様々な情報を総合的に判断し検討します。



百瀬浩子 議員

問 埼玉県が推奨する飲用水の備蓄量は、一人1日3リットル、これを3日分7日分で、一人9リットル21リットル以上になります。これを備蓄し続けるの

答 令和5年度決算時における1立方メートル当たりの供給単価は155.5円を大きく下回っており、そのバランスは非常に悪い状態にあります。現状の施設能力としては、1日あたり1327立方メートルの水が配水でき、これは令和5年度の1日平均配水量の実績836立方メートルに対し1.587倍の余力がある状態にあると言えます。

問 本村の簡易水道事業については、公営企業会計への移行・適用や老朽化への施設の修繕工事等が実施されており、これらの取組の内容としては、アセットマネジメント、水道事業ビジョン、経営戦略、朝日根地区老朽管更新事業、施設整備計画などがあります。水道料金の改定についても「上下水道事業審議会」による審議・答申を得て、先月末に住民説明会が開催されましたが、給水人口と維持管理費とのバランスはどんな状態にありますか。



漏水復旧作業現場

答 災害時飲料水の確保は重要な課題で「無限水」という商品等の「空気から水を作る」機器は素晴らしに当たっては充分な検討が必要で、群馬県富岡市による実証実験の結果等を確認した上で再度検討していけたらと感じています。

はとても難しいと思います。調べたところ「普段も、災害時も、安心・安全でおいしい水を無限に。」をキャッチコピーにしたENEL株式会社の「空気から水を作る」装置「無限水」の存在を知りました。この装置の他自治体による活用事例は、北海道美唄市の「災害協定の締結」、群馬県富岡市の「脱炭素×防災の同時実現を目指す実証実験の実施」(現在も実施中)があります。「水の確保」という地域課題を解決する先進的な取組をしていくための第一歩として「無限水」の導入検討について、村長の率直なご感想をお答えください。

東秩父村の活性化のために

地域おこし協力隊の増員等について

企画財政課長

ふるさと納税感謝券の自動販売機設置を検討



梅澤邦夫 議員

問 東秩父村にもふるさと応援寄付金返礼品に「納税

答 横瀬町には羊毛製品やいちごの「あまりん」等、人気のある返礼品があり、この違いが大きいと思われます。

問 ふるさと納税額は横瀬町3908万2000円と東秩父村の10倍以上です。理由は何かと思いますか。

答 現段階ではさらに採用する予定はありませんが、庁内で要望を再確認します。

問 役場の下請け機関としてではなく、役場職員ではできない事業等を協力隊に委任して活性化を図るようにしたらどうでしょうか。

答 協力隊員の住む「空家」がなかったため採用出来ませんでした。今年4月から「空家対策」を担当する協力隊員を採用しています。

問 周囲の自治体と比べ近年地域おこし協力隊の採用が極端に少ないようですが理由はなぜですか。

答 定住も目的の一つであり、空家を優先したため間借りまでは考えませんでした。

問 空家がないことを理由に地域おこし協力隊の採用がなかったとの答弁ですが、高齢者の一人住まいも多いこともあり、間借りは考えなかったのでしょうか。

答 「納税感謝券」のPRとして、和紙の里にふるさと納税自販機の設置を検討しています。観光客等がその場で納税し感謝券を受け取れて即利用でき、利用者の利便性も増すとともにAICAカメラ設置により利用者のデータを収集し、今後の施策にも反映できるとしています。

問 ふるさと納税のPR等を充実させるために、地域おこし協力隊の活用はしないのですか。

答 感謝券があります。この納税感謝券はふるさと納税額の3割相当です。休日に道の駅を訪れる観光客等が多く、村内の主要な事業所で使用できる「納税感謝券」の需要が見込まれます。この観光客等に対してPRを考えていますか。